

道標



希望とは目の前にある道
どこかに行けると信じよう
さあ、自分探しの旅へ！

📖 努力の壺～小学校1年生の作文から～

「お母さん、努力の壺の話、またして。」

「うん、いいよ。今度はなあに。」

「逆上がり。」

「あらあら、まだいっぱいになっていなかったのね。ずいぶん大きいねえ。」と言いながら、お母さんは椅子を引いて、私の前に座りました。そして、もう何回もしてくれた努力の壺の話をまたゆっくりと始めました。それはこんな話です。

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力の壺をもらいます。その壺はいろんな大きさがあって、人によって時には大きいのも小さいのもいろいろあります。そしてその壺は、その人の目には見えません。でもその人が壺の中に一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつかその「努力」があふれる時、壺の大きさが分かるというのです。だから休まずに壺の中に「努力」を入れていけば、いつか必ずあふれる時が来るのです。

私はこの話が大好きです。幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。その時は、横ばしごの練習をしている時でした。それから一輪車や鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬。何でもがんばってやっている時、お母さんに頼んでこの話をしてもらいます。くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きな壺が見えてくるような気がします。そして私の努力がもう少しであふれそうに見えるのです。だからまたがんばる気持ちになります。

お母さんの言うとおり、今度の逆上がりの壺はずいぶん大きいみたいです。逆上がりを始めてから、もう2回もこの話をしてもらいました。でも今度こそ、あと少しであふれそうな気がします。だから明日からまたがんばろうと思います。お母さんは、「壺が大きいととても大変だけど、中身がいっぱいあるからあなたのためになるのよ。」と言ってくれるけど、今度神様にもらう時は、もう少し小さい壺がいいなあと思います。

(出典:朝日作文コンクール「子どもを変えた親の一言」作文25選 明治図書)



目標を達成するためには努力を続けることが必要不可欠です。でも、それを難しくさせる原因がこの壺にはあります。

一つ目の理由は「中を見ることが出来ない」という点です。この壺は中身が見えないので、今どれくらい努力が溜まっているのかわかりません。半分くらい溜まっているかもしれないし10分の1も溜まっていないかもしれません。人間は、終わりが見えないことが苦手です。いくら頑張っても成果がでないと、「頑張ってもどうせ無理だ」と諦めてしまうのです。でも、考えてみてください。もしかしたら、後一回努力を注ぐだけで壺が溢れていたのかもしれない。人間は意識しなければ楽な方へと流れてしまう生き物です。壺が溢れて目標が達成された時をイメージして(スポーツのイメージトレーニングと同じです)、努力を注いでいくことが大切です。

二つ目の理由は、「壺の大きさが人によって異なる」という点です。壺の大きさが人によって違うとはどういうことか。例えば、「英単語を10覚える。」という目標を立てたとします。A君は100回書かないと覚えられません。B君は1回書いただけで全て覚えることが出来ます。この時Aさんの壺はBさんの壺の100倍の大きさになります。当たり前の話ですが、「他人と同じだけ努力したから同じ成果がでる」なんてありえません。それでも、目標を達成するために努力は必要です。目標を明確にし、自分に厳しく努力を続けられる人に育ててほしいものです。